



村人との交流はかけがえない経験 (ガーナ国教師海外研修)



JICA による開発教育支援事業の現状と課題

開発教育協会の定義によれば、開発教育とは「私たちひとりひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動」です。

「開発教育」は英語の Development Education の直訳で、1960年代に南の開発途上国でのボランティア活動に出かけていった欧米の青年たちによって始められたと言われていました。もともとは、開発途上国の文化や社会、そこに暮らす人々の生活を本国に暮らす人々に知ってもらうために働きかけることでしたが、現在では望ましい開発のあり方、地球社会における人々の生き方を問う教育へと概念を拡大しています。

ヒト・モノ・カネと情報の国際的な流動化の中で、世界経済の融合と連携の深化、政治主体の多様化、社会問題の世界規模化などいわゆるグローバル化が進行する中で、私たちの日常生活は世界で起こるさまざまな出来事と無縁ではあり得ない時代に入り、貧困、紛争・難民、HIV/エイズ、教育、環境といった今日の世界が抱える様々な問題は国家の枠を超えて地球規模化し、もはや一国では解決できなくなりつつあります。このような状況の中で、開発教育は自分たちの生活とのつながりの中で人類共通の課題を考え解決する主体を育む教育であるということが出来ます。

また、いじめ、不登校、青少年の犯罪増加など、現在日本の教育現場が抱える問題は深刻です。その背景には、現代社会が複雑になり自分と社会とのつながりが見えにくい、または、人と人の関わりが希薄になってきた、など、子どもたちを取り巻く環境の変化が大きく影響していると考えられます。開発教育は子どもたちに現代社会の中でよりよく生きていく力を与える、つまり「生きる力を育む教育」として、これらの問題の一つの解決策となる可能性も秘めています。

開発教育の担い手は、教育現場の教員、開発教育を活動目的とするNGO、市民団体とさまざまで、その活動内容も多彩です。これら多様な「開発教育」の担い手の中にあって、JICAは開発教育実践の現場を側面から支援する「開発教育支援事業」を実施しています。



出前講座を通じて世界を知ろう
(宇部・ときわ湖畔コースホステル)

JICA中国の開発教育支援事業のメニューは以下の通りです。

- 国際協力出前講座
- 視聴覚資料の貸し出し
- 施設見学の受け入れ
- JICA研修員の学校訪問
- 中学生・高校生エッセイコンテスト
- 教師海外研修
- 国際理解教育研修会
- 高校生国際協力体験プログラム
- インターン・職場体験の受け入れ
- 中国5県における開発教育関連セミナー・イベント等の開催

JICA中国では開発教育の重要性に着目し支援のための事業を重視していますが、まだまだ教育現場での認知度が低いのが実情です。また、開発教育に関心を持たれている教員の方がJICAの研修プログラムに参加したとしても、周囲の理解が必ずしも十分ではないため、せっかくの研修成果を教育現場で活かすづらいとの声も聞かれます。このような現状から、JICA中国では「出前講座」の拡充をはかるとともに、教員の方を対象とした研修会の実施や支援を強化しています。また、教育委員会や教育センター（教育事務所）との連携を深める方向も模索しています。

モノから世界を見つめる

視聴覚資料の貸し出し

様々な国からやってきた民芸品や民族衣装。モノの向こうには、各国の文化・伝統・習慣・生活があります。様々な場面でご利用ください!!

お問い合わせ & お申込先 / **A**



貸し出しできるモノは、こちらをご参照下さい。
http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/kaihatsukyoiku/2_forschool.html#school_shiryou



先生が学ぶ

教師海外研修

日本の子どもたちにアジアやアフリカの開発途上国のことを伝えたいと思っている先生方を対象に、開発途上でJICAが実施する青年海外協力隊員を始めたとして、国際協力の現場を訪問します。毎年8月上旬に2週間の期間で実施しています。



お問い合わせ & お申込先 / **C**

国際理解教育研修会

子どもたちをひきつける授業をしたい!! 様々な『国際理解教育』の手法や各学校の取り組みをご紹介します!!

お問い合わせ & お申込先 / **C**



国際理解教育、世界の現状、日本の国際協力のこと...
 あなたのいろんな教えて! にこたえます!

JICA中国 開発教育支援事業 様々なプログラム

JICA中国開発教育支援事業HP

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/kaihatsukyoiku/index.html>



生徒が体験する

JICA中国施設見学



JICA中国の施設見学では、ボランティアの体験談、異文化理解のワークショップ、世界のバイキング料理を体験できます。

お問い合わせ & お申込先 / **C**

高校生国際協力体験プログラム

国際協力ってなんだろう? 自分たちはどんなことができるだろう? 開発途上国の問題解決に高校生たちがこころと体で取り組む2泊3日の合宿です。

お問い合わせ & お申込先 / **C**



国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

自らの体験、本・テレビを通じて国際協力について感じたことを書いてみよう! 優秀作品には海外研修副賞もあります!!

お問い合わせ & お申込先 / **A**

学校に招く

国際協力出前講座



お問い合わせ & お申込先 / **B**

青年海外協力隊OB・OGやJICA関係者が、開発途上国や国際協力に関する話を『出前』します!! 「これまで知らなかった、アジアやアフリカの国のことが身近に感じられた。」 「ボランティアという生き方に触れることができた。」 という声、実施した学校から寄せられています。

研修員の学校訪問

「百聞は一見にしかず。」外国の研修員との出会いから、子どもたちの無限の好奇心の扉を開きかけられます。

お問い合わせ & お申込先 / **A**



お問い合わせ & お申し込み先

各プログラムによって、お問い合わせ & お申し込み先が異なります。ご注意ください。

記号	プログラム名	名称	連絡先
A	【国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト】 【研修員の学校訪問】 【視聴覚資料の貸し出し】	JICA中国 業務第二チーム	住所: 〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内 電話: 082-421-6310 FAX: 082-420-8082 E-Mail: cictp2@jica.go.jp
B	【国際協力出前講座】	各地域のJICA国際協力推進員	「あなたの街のJICA国際協力推進員(3頁)に記載のとおり」
C	【教師海外研修】国際理解教育研修会 【高校生国際協力体験プログラム】 【JICA中国施設見学】	(社)青年海外協力協会(JOCA)中国支部	住所: 〒730-0017 広島県広島市中区鉄砲町1-20 第3ウエノヤビル6F 電話: 082-511-3340 FAX: 082-511-3342 E-mail: chugoku-br@joca.or.jp

海外での国際協力体験を日本社会に還元 ~ ヒューマンストーリーを出前します ~

JICAは開発途上国に対する国際協力を実施しています。その中心は、青年海外協力隊に代表されるような、人を通じた協力です。そうした協力の過程では、文化の違いによる戸惑い、葛藤、また仕事や人間関係を通じた喜びや感動など数多くのヒューマンストーリーが詰められています。こうした体験や、写真・民族衣装などの素材は、まさに日本で開発教育を実践して行く上での貴重な教材となります。JICAは、このような海外での国際協力経験を積極的に日本社会に還元することで、開発途上国に対する理解やそこで活動するJICAへの支持を得ることを目指した開発教育支援事業を実施しています。

あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター

TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826
島根県松江市学園南1-2-1
くびきメッセ2F
E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/



長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団

TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947
鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F
E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html

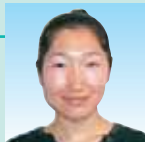


花岡 潤
青年海外協力隊OB
派遣国:パプアニューギニア
職:村落開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会

TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811
山口県山口市吉敷3185-1
E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/



鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター

TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811
広島市中区中島町1-5
E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



磯村 祐子
日系社会青年ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職:日系日本語学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター

TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037
広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F
E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白築 健
日系社会青年ボランティアOB
派遣国:ポリヴィア
職:日系日本語学校教師

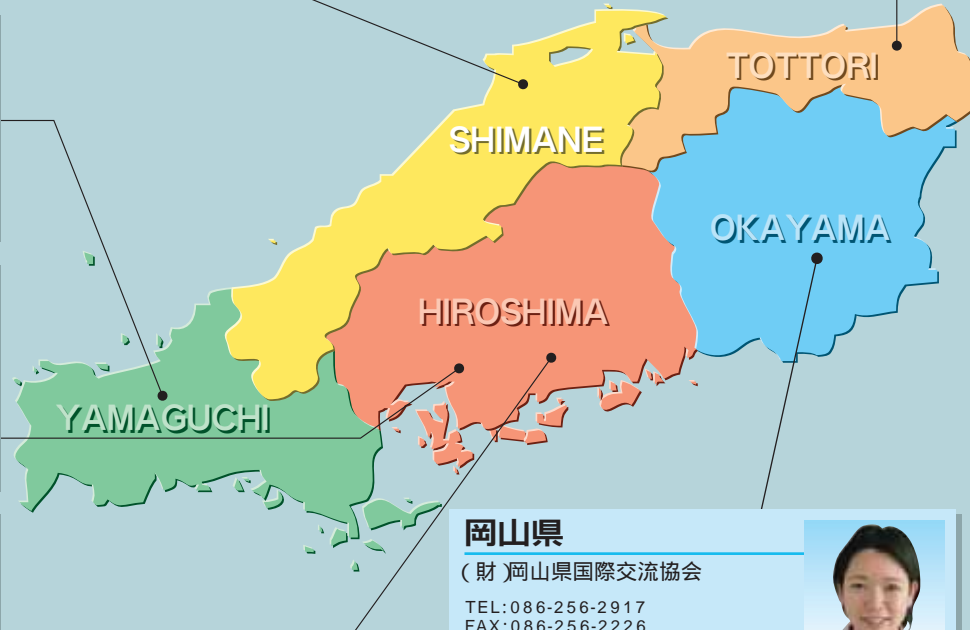
岡山県

(財)岡山県国際交流協会

TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2226
配置先住所:〒700-0026
岡山市春暎町2-2-1
E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



梶田三佐江
青年海外協力隊OG
派遣国:タンザニア
職:コンピュータ技術



教師海外研修に参加して～視野を広げ教育活動に生かす～



島根県美郷町立呂智小学校
教諭 坂井 務

「少し休憩しよう。」遠くまで続く青い空のもとで、車から降りた我々9名は、背伸びをして胸一杯に透き通った空気を吸い込んだ。

2週間の海外研修では、各々が事前につくった課題(医療・教育・観光に関わること)について、自身の目で調査・情報収集することが一つの大きな柱だ。移動時間もそのための格好の場であり、見聞きするもの全てが新鮮で、知的好奇心をくすぐられる。

これまでいくつもの国々を訪れ、異文化に触れることについては「免疫」があると思っていた。しかし、ケニアはそんな私を夢中にさせた。全てが驚きの連続だったのだ。

協隊員の体験談をリアルタイムで直接味わう臨場感は格別だった。日々の生活の喜びや苦勞がダイレクトに伝わってきた。貧しくても、健気に学校で学ぶ子ども達と、彼らやその家族を支える日本のNGOの活動は衝撃であり、誇りでもあった。そして、苦しい状況でもプライドを持って奮闘するケニア人の姿は今も忘れられない。この研修で、間違いない物の見方や感じ方が変わっていった。

人間の視野など狭いものである。教師海外研修はそんな自分の視野を広げ、国際協力の尊さや広い世界を子ども達と学ぶためのバックボーンを与えてくれた。JICA関係者をはじめ、お世話になった皆様から感謝したい。



ケニアの子供達の笑顔に囲まれて

高校生国際協力体験プログラムに参加して



岡山県立岡山南高校
教諭 梶田 恵子

8月17日～19日に行われた高校生国際協力体験プログラムに、3年女子生徒2人を連れて参加しました。中四国から18校約60名の高校生が集まっており、生徒会役員や大勢の希望者の中から選抜した生徒を連れてきたと、昨年にも参加し文化祭で企画展を開きフェアトレードに協力したと聞いた時は、少し不安になりました。私の連れてきた生徒は、青年海外協力隊に入りたいという夢は持っていますが大人しく物静かで、果たして期待されるような活動が出来るだろうか。

初日は自己紹介を兼ねたビンゴゲーム、「もしも世界が82人の村だったら...」というワークショップ、さらに青年海外協力隊についてのお話。2日目はグループに分かれてケニアのクワボンザ村での活動プラン作成のワークショップとその発表、その後JICA研修員との交流会・懇親会。3日目は最後のまとめとして、「これからの自分」を学校別に発表をしました。

最初は緊張気味だった2人も、JICAやJOCのスタッフの方たちに助けをもらったり励まされたりしながら、ワークショップを楽しみ、発表も堂々とこなし、学校では見たことのない自信に満ちた表情を見せてくれました。他校生や外国人との交流が予想以上に楽しかったらしく、「思い切って参加して本当によかった。一歩前へ出ることの大切さを痛感した。後輩にも参加を勧めたい」と話しています。



今後の学校での取り組みを発表しました!

各県 国際協力推進員の活動

鳥取県

「国際理解セミナー」(第1回目)を開催!(11/12)

JICA中国と鳥取県国際交流財団との共催で毎年実施している国際理解セミナーの第1回目を11月12日(日)に開催しました。今年度は「多文化共生」を大きなテーマとしており、第1回目の講師に(特活)多文化共生センター前理事長の阿部一郎さんをお迎えし、参加者全員で「多文化共生の意味」について改めて考える機会を持ちました。第2回目は来年1月21日(日)に開催予定。セミナーに参加した人たちが、地域社会の中で「多文化共生」「国際理解・協力」を考えていく際のリーダー(担い手)となることを目指し、国際理解教育ワークショップのファシリテーター講座を実施します。



国際理解セミナー(第1回目)のフリーディスカッション

青年海外協力隊「特別募集説明会」を実施しました!

(10/12、10/16)

鳥取県立米子高等技術専門学校(10月12日)と鳥取大学医学部保健学科(10月16日)において、青年海外協力隊の特別募集説明会を実施しました。将来、自動車整備士や看護師、保健師になるべく勉強中の学生さん達に、開発途上国からも自動車整備、看護などの面で協力を望む声が多く、今後、より高度な技術や経験を身に付けた際の選択肢のひとつとして、青年海外協力隊への参加もあるということを知っていただく良い機会となりました。

島根県

JICA青年招へい事業

アフガニスタン青年行政グループ訪問(11/14~20)

11月14日(火)~11月20日(月)までアフガニスタンの省庁等で働く20代~30代の国家公務員ら14名が島根県を訪れました。受入団体は「島根県地域国際交流協会連合会(FIEAS)、視察先には県庁を始め、島根大学生物資源教育研究センター、雲南消防署や救命法体験、身体教育医学研究所(ケアポートよしだ)、雲南市吉田町の菅谷たたら(アニメ、もののけ姫の舞台)、尾原ダム等、地域開発に関わる主要な機関を訪問しました。ケアポートよしだ視察では、高齢者や子どもの健康・体力づくりに貢献していく取り組みを実際にアフガニスタン青年達に体験してもらったため、太極拳を応用したリズム運動を高齢者の方々と共に行いました。青年達も見様見真似で取り組み、言葉は交さなくても運動を通して交流できたことに、とても喜んでいました。



アフガニスタン青年のリズム運動体験

JICAボランティア(島根県出身者)達の「生の声」を掲載中!(10月~)

島根県文化国際課HP(ホームページ)に、島根県出身JICAボランティア達の現在の活動の様子を紹介する「JICA海外ボランティア派遣者便り」のコーナーが立ち上がりました。現在、小学校教諭でパラグアイに派遣中の山本麻由さん、ベトナムに派遣中の森脇剛さん、理数科教師でウガンダに派遣中の桐田晃さんからのお便りを掲載中です。これからも随時、隊員達からお便りが届き次第、掲載していく予定です。ぜひHPをご覧ください、JICA海外ボランティアで派遣されている方々の「生の声」を感じてください。

詳細はこちらです <http://www.pref.shimane.jp/section/kokusai/>

岡山県

みんなの太陽はなに色?(10/1~2)

岡山県との共催で「世界の子ども絵画展」が、イオン倉敷ショッピングセンターにて開催されました。県出身の「協力大使」(青年海外協力隊員)が任地の子どもたちに描いてもらった絵(5カ国:チリ・パラグアイ・ブルガリア・マラウイ・ニジェール)を、一堂に展示したものです。画用紙やクレヨンを使って使う子、芸術的な絵画を描いてくれた子、大好きな町の様子を描いてくれた子...地域の特徴が現れた楽しい絵で会場がいっぱいになりました。

ところで、あなたは太陽をなに色で描きますか?今回、絵画展に参加してくれた地域では、太陽の色が黄色の子が多かったように思います。ただ、マラウイの子どもは日本の子どもと同じで、国旗が赤い太陽なので赤い太陽の絵を沢山描いていました。太陽ひとつをとっても、同じものを見て、いろんな色に見えるんですね。

当日はNGOのブース、JICAボランティア応募相談、協力隊員からのビデオレター上映、などが行われました。沢山の皆さんに絵を見ていただいて大盛況でした。



マラウイの国旗



ムッサくんの絵(ニジェール)

広島県 広島市

平成18年度国際交流・協力の日が開催されました

11月19日(日)に広島国際会議場(平和記念公園内)で、「平成18年度国際交流・協力の日」が開催されました。広島市内66の国際交流・協力団体が中心となって、在外外国人を含む広島市民を対象に、屋台、バザー、セミナー、参加型のイベントなど、23の「学び」を基調としたイベントが実施され、約5,400名の来場者は、それぞれの「国際交流・協力の日」を過ごしておられました。

その中のいくつかをご紹介します。

<民族衣装の試着・世界のお茶、コーヒーの試飲コーナー>

JICA中国は、普段触れる機会が少ない「開発途上国の文化」を紹介するとして、体験コーナーを設置しました。来場者は、初めて着る民族衣装や不思議な味のお茶に、終始笑顔で感想を言い合っておられました。

<青年海外協力隊OB会による帰国報告会>

11:00~12:00の間、地下2階ダリア会場では、ブルガリアへ生態調査として派遣された浜部直樹さん(15年度1次隊)、ジンバブエへ小学校教諭として派遣された津田剛志さん(15年度1次隊現職参加)が、それぞれの活動を報告。会場には約70名が訪れ、熱心に二人の話に耳を傾けました。来場者には、OB会が出店していた屋台のメニューである「チリコンカルネ(メキシコ料理)」、「チエチエナ(ニジェール料理)」、「タマリンドジュース(タイのジュース)」が提供され、体験談と民族料理で、2度美味しい時間を過ごしました。



青年海外協力隊
広島県OB会による屋台

<国際交流・協力 早押しクイズ大会>

「JICAの今の理事長で、かつて国連難民高等弁務官を務めた女性はだれですか」。ピンポン。「赤が早かった」「ええと...緒方貞子?」「はい正解です」。地下2階ダリアの紹介展示コーナーでは、(財)ひろしま国際センター(HIC)が中心となり、待望の新企画「早押しクイズ大会」が実施されました。テレビの長寿クイズ番組『パネルクイズアタック25』をモデルにした企画で、その名も「タックル25」。赤・緑・白・青の4色の解答席に座った4人が、問題に答えながらオセロゲームの要領で25枚のパネルを奪い合いました。午前の大学生対抗は広島経済大学、午後の国際交流・協力団体対抗は地球市民共育塾ひろしまが、優勝しました。



手に汗を握る真剣勝負を繰り広げた
国際交流・協力 早押しクイズ
「タックル25」
(ひろしま国際センター 沖田真一さん撮影)

<国際協力講演会>

地下2階ヒマワリ会場では、講師に橋田幸子さん(「橋田メモリアル・モハマドくん基金100人委員会」代表)を迎え、「約束~戦場ジャーナリスト・橋田慎介と見るイラク~」と題した講演会が開催され、550人の会場は満席となりました。2004年にイラクで凶弾に倒れた夫の意思をついで活動は多くの方の胸を打ち、講演会終了後にはたくさんの募金が来場者から寄せられました。

山口県

ガイコクジンとまちを歩こう!~多文化共生の場づくり~

JICA中国と山口県国際交流協会が共催で実施している国際理解推進サポーター養成講座の後半は、『暮らしの中でできる国際理解』として『多文化共生のまちづくり』をテーマに、山口市民活動支援センター「さばらんで」と協働で開催しました。

山口県にも研修、勉強、仕事あるいは日本人と結婚して等、様々な理由で外国人が暮らしています。国籍に関係なく、私たちは「好み」「習慣」「考え方」「得意なこと・苦手なこと」「関心のあること」などの違いがあり、そのことで対立・孤立したり、逆に、暮らしや自分の考え方を豊かにできます。

この養成講座では実際に、在住外国人とともにまち(商店街)を歩きながら、買い物客や商店街の方に、外国とのつながりや「違い」、まちの変遷についてのインタビューをしました。事前のワークショップでは、読み書きが苦手でおとなしかった方が、いざまちに出ると、おしゃべりになったり...と、今回のまち歩きを通して、参加者同士がお互いのいろいろな面・共通点などに気づいたり、まちやまちの人々からの新しい発見もありました。

あるNGO関係者が『戦争』の反対は『無関心』だと言いました。地域のなかの外国人との交流、JICA出前講座などを通じて、お互いの違いを認めあえる人が増えれば、平和にもつながると信じています。



まちの人に突撃インタビュー

技術研修の窓

研修員学校訪問



HIC研修部 研修課
研修監理員
正木 裕子

(財)ひろしま国際センター(HIC)は、JICA中国から国際理解教育支援事業の一環として、JICA受入海外技術研修員の学校訪問の実施、随行を受託しています。HICのある広島県内に留まらず、隣接県の小・中学校へも訪問します。およそ一ヶ月前から学校の先生とHICの研修監理員とで、訪問当日の内容の打ち合わせが始まります。研修員と小中学生にとって、当日がより楽しく充実した時間を過ごせるよう、学校と協力し準備を進めています。研修員の代表挨拶や出し物の連絡調整から、場合によっては研修員の食事制限の連絡に至るまで、HICが研修員と学校とを繋ぐ役目は、研修員や学校の希望に添って多様です。

学校訪問では、日本語や英語などを使った交流を始め、体を動かして子ども達と遊んだりする交流など、各訪問先での様々な交流のアレンジがあります。研修員も日本の文化や教育に

直接触れ、大変貴重な経験となります。時には、子ども達の歌声や踊りに感動した研修員が、その場でお返しに自国の歌や踊りを披露することもあり、日本の子ども達にとっても、異文化に触れる又とない機会となり、喜ばれています。短い時間ですが、お互いにとっても有意義な異文化交流のできる訪問となります。その後も、子ども達から研修員へのお礼の手紙やプレゼントなどを頂くなど、帰国まで交流が続く事もあります。

HICでは、今後もより多くの学校の協力を得て、研修員とたくさん子ども達が交流できるような学校訪問を実施していきます。



中東地域<上水道維持管理コース>
広島市立三田小学校4年生との交流



広げよう! 市民参加の輪

アフリカの研修員と交流して



広島女学院高校2年 左から
宇佐美友梨さん、梶原あゆみさん、坂口悟子さん

9月16日に、私達の学校、広島女学院高等学校にアフリカから来ているJICA研修員の方12人をお招きしました。この方々とは、8月に行われたJICA主催の高校生国際協力体験プログラムに私たちが参加したときに、友達になりました。私達は、このとき初めてアフリカの人達と話す機会をもって、彼らの優しさとユーモアに惹かれました。そして、もう一度会いたいと思い、学校にお招きすることにしました。

まず、私達の学校案内をしました。職員室や室内プール、食堂などを見て回りました。どの場所でも興味津々なようすです。特に剣道場では、実際に胴着を着てみたりチャンバラの真似をしたりして楽しんでいました。

次に、生徒約30人を交えての交流会を持ちました。アフリカ

のことや家族の話、日本についてなどを、英語を駆使して話しました。話の中で、彼らには兄弟が多いこと、自分の国に誇りを持っていることなどが、印象的でした。生徒も英語の得意不得意に関わらず、彼らとコミュニケーションをとることができました。話し終わると、今度はイス取りゲームをしました。勝者には、アフリカからのプレゼントが用意されていました。

最後に皆で輪になり、彼らの歌にあわせて踊りました。その頃には、本当に彼らがアフリカに帰ってしまうのが嫌な位、大好きになっていました。

彼らは底なしに明るいのに、真面目で、すごく強い優しさを持っているように感じました。この機会に与えてもらった縁を、いつまでも持ち続けたいです。



アフリカの研修員と一緒にポーズ!

中国地方からJICA理事長表彰

平成18年度JICA理事長表彰が、10月2日に緒方貞子理事長から授与されました。中国地方からは、団体の部では世界青年徳山友の会(会長茅原正春氏)、個人の部では武村重和氏(広島大学名誉教授)が表彰されました。世界青年徳山友の会は、JICA青年招へい事業での地方実施協力団体として、開発途上国のニーズに合致した手造りの地方プログラムを実践されてきました。武村氏は、ケニア国中等理科教育強化計画をはじめとする理科教育分野へ貢献されてきました。

受賞をお喜び申し上げますとともに、これまでのご協力を心から感謝致します。



答辞を述べられる武村名誉教授



懇談会での茅原会長ご夫妻
(左から5・6人目)

JICA18年度「ユニークエコちゃん賞」はJICA中国

「ユニークエコちゃん賞」は、JICA環境マネジメントプログラム活動のうち、他にはないユニークな取り組みを表彰するもの。ひろしま国際プラザ(HIP)を構成するJICA中国、(財)ひろしま国際センター他、全4機関によるHIP・EMS連絡会の月例実施やHIP勤務者62名が一丸となった環境運動「HIPエコ・オフィス運動」への取り組みが評価されての受賞。



副総括環境責任者の粗総務部長から表彰状と副賞を授与されるJICA中国滋谷職員

酒まつり

JICA中国は、10月7日(土)と8日(日)に開催されました東広島市の酒まつりで、JICA研修員と市民の交流の場として研修員交流コーナー、フェイスバートコーナー、民族衣装コーナーを設けました。(財)ひろしま国際センター他、JICAとともにひろしま国際プラザを構成する全4機関で、「ひろしま国際ひろば」を設営し、人気スポットの一つとして好評を博しました。



「黒ヒゲ危機一発!!」ゲームで対戦!!
(研修員交流コーナー)

備えあれば憂いなし ~救命装置の設置と総合消防訓練の実施~

ひろしま国際プラザに、救命装置AED(自動対外式除細動器)が設置され、AEDを組み込んだ救命処置の説明・実習会を開催しました。また今回の消防訓練は、地震発生による火災を想定して実施しました。今後とも、災害や緊急事態に強いプラザを目指して取り組みます。



救命装置AED



総合消防訓練(12/12)

開発途上国で活躍中の中国5県JICA ボランティア・専門家

(2006年11月末現在)()内は、専門家内数



県名	専門家	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア	合計
鳥取県	4	10	0	0	1	15
島根県	11	21	6	1	0	39
岡山県	16	44	7	5	1	73
広島県	13	48	7	1	0	69
山口県	2	30	5	0	0	37
合計	46	153	25	7	2	233

お問い合わせ

独立行政法人国際協力機構 中国国際センター (JICA中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)
TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082 E-mail:jicacic@jica.go.jp
URL:http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html

JICA中国ニュースのバックナンバーがHPよりダウンロード出来るようになりました!!
詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/whatscic/news.html/>

